

国産繭・生糸を用いた
付加価値の高い製品づくりに向けて

令和7年3月

一般財団法人 大日本蚕糸会

国産繭・生糸を用いた付加価値の高い製品づくりに向けて

I WGの設置及び開催状況

1. 趣旨

全国シルクビジネス協議会の協力を得て、以下の委員で構成するWGを開催し、新たなビジネス潮流について意見交換し、情報発信する。

2. WG会合の構成

(WG委員)

河合 崇	ユナイテッドシルク（株）代表取締役社長
鳥越 昌三	東洋紡糸工業（株） 取締役開発部長
亀田 恒徳	農研機構生物機能利用研究部門新素材開発グループ長
富田 秀一郎	農研機構生物機能利用研究部門カイコ基盤技術開発グループ長
中澤 靖元	東京農工大学大学院工学府生命工学専攻教授
齊藤 昭紀	群馬県農政部蚕糸特産課地域特産主監
四方田 正美	群馬県農政部蚕糸技術センター所長

(蚕糸専門員)

佐野 悟郎	蚕糸専門員
島村 博子	蚕糸専門員
武居 正和	蚕糸専門員

(オブザーバー)

三村 真梨子	農林水産省農産局果樹・茶グループ地域作物第2班課長補佐
大城 璃可子	農林水産省農産局果樹・茶グループ地域作物第2班振興係

(事務局)

松島 浩道	(一財)大日本蚕糸会	会頭
東條 功	(一財)大日本蚕糸会	副会頭
伊藤 優	(一財)大日本蚕糸会	蚕糸絹業振興部
小林 栄一	(一財)大日本蚕糸会	蚕糸絹業振興部
岡島 アヤ	(一財)大日本蚕糸会	蚕糸絹業振興部
阪本 英恵	(一財)大日本蚕糸会	蚕糸絹業振興部

3. WGの開催

(1) 令和6年7月11日 第1回WG

- ・国産繭の付加価値向上の可能性

(2) 令和6年10月8日 第2回WG

- ・国産繭の付加価値向上の可能性

(3) 令和7年2月5日 第3回WG

- ・繊維以外用途の需要見込み
- ・遺伝子組換えカイコの活用展望

4. 有識者ヒヤリングの実施

(1) 海外有識者 Silvia Cappellozza氏

- テーマ：「欧州シルクルートの復活プロジェクトについて」
- 日時：8月23日（金）14：00～16：00
- 場所：大日本蚕糸会会議室（オンライン併用）
- 参加者：会場36名、オンライン48名 合計84名

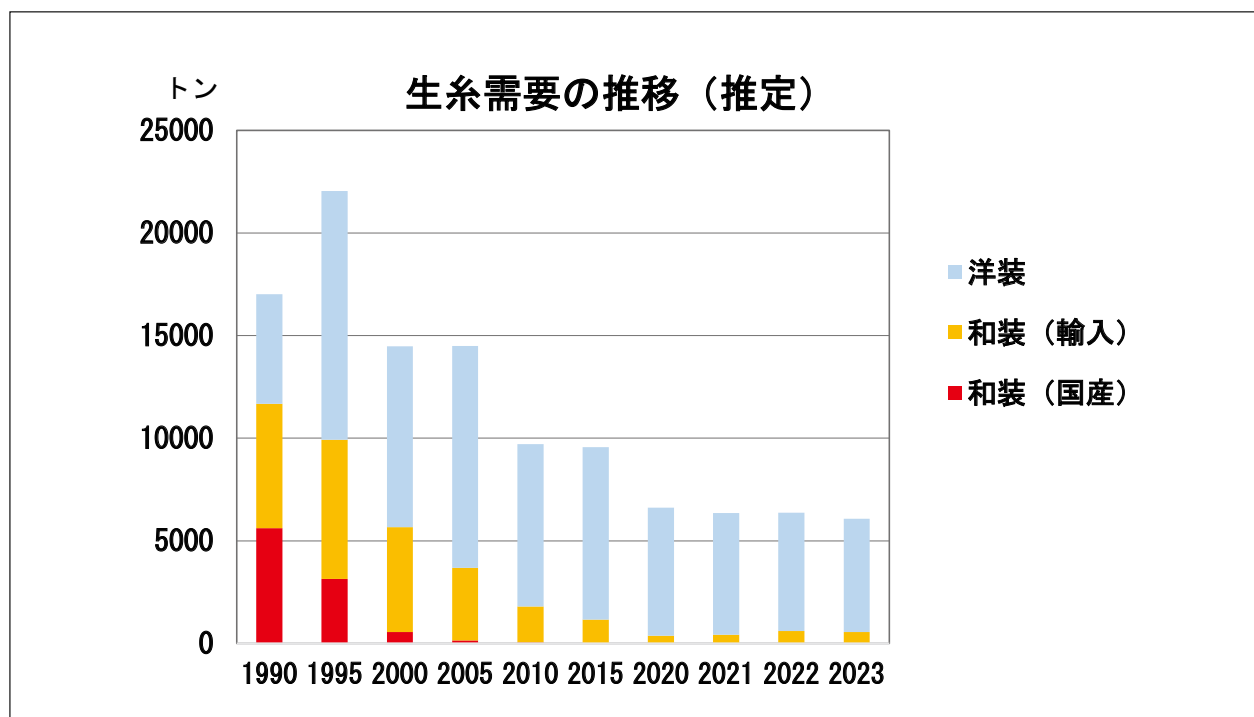
(2) 国内有識者 株式会社羽田未来総合研究所 社長 大西 洋氏

- テーマ：「匠の技、オール日本で支える」
- 日時：1月27日（月）14：00～15：30
- 場所：大日本蚕糸会会議室（オンライン併用）
- 参加者：会場34名、オンライン72名 合計106名

Ⅱ 検討報告

1. 我が国の生糸需要と国産繭・生糸の販売環境

2023年における我が国の生糸需要は、6,060トンと推計され、世界の生糸生産量（8万トン強）の7～8％を占める市場となっている。その内訳は、洋装需要が9割程度、和装需要は1割程度とみられる。



国産繭・生糸の流通のほとんどを占める蚕糸・絹業提携グループを通じた流通においては、川下業者の多くが和装業者であることから、和装需要が大部分を占めている。提携グループは、国産生糸の高い販売価格を実現し、これを各生産段階に還元することを旨として設立されたものの、輸入生糸との競争や和装需要の減退などもあって、製糸原料としての繭については養蚕農家が再生産できるような価格の実現には至っていない。

一方、国産の繭に価値を見いだす企業・工芸作家や繊維以外の医薬品、化粧品、食料品等の需要に向けたビジネス展開を目指す企業が出現しており、国産繭の供給可能な養蚕農家を探す動きがみられる。

2. 国産繭・生糸を用いた付加価値の高い製品づくりへの挑戦

持続的な養蚕業を確立するためには、国産繭・生糸を使用した製品の高い販売価格を実現しその利益を養蚕農家に還元していく必要があり、国産繭・生糸の価値を訴求できる方策を追求していく必要がある。

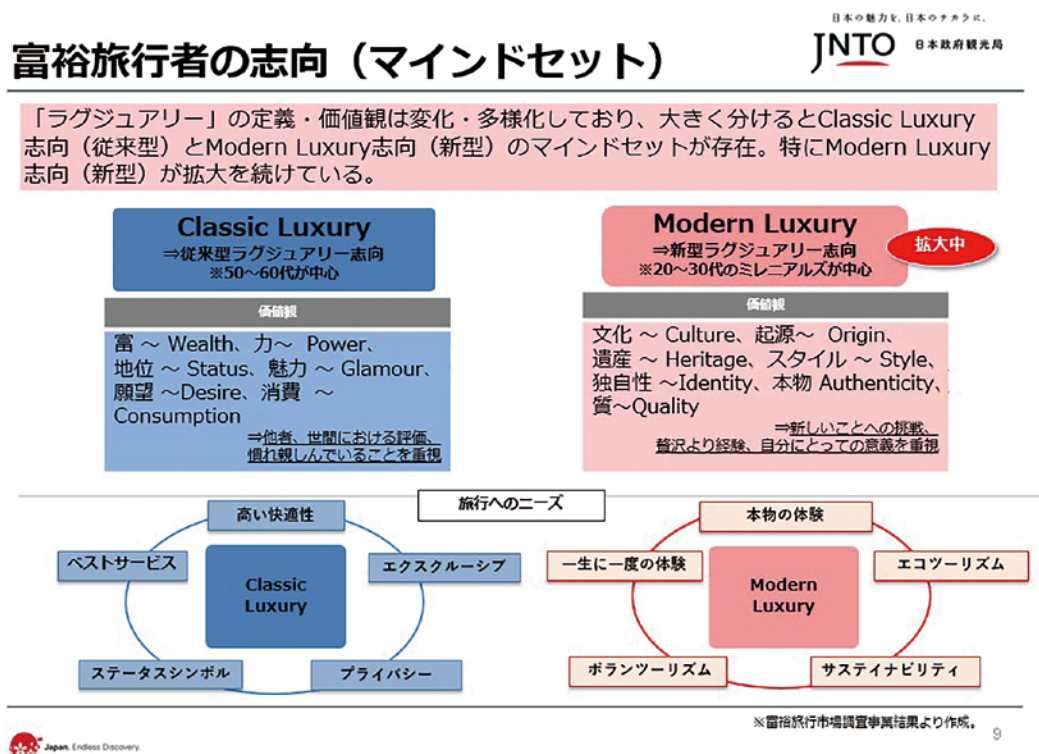
(1) 歴史・文化の活用

我が国の養蚕は、中国の史書「魏志倭人伝」に3世紀に邪馬台国から魏に倭錦が贈られている記述があるなど、非常に古くから営まれてきており、長い歴史の中で生活文化に根付き、伊勢神宮の式年遷宮等の祭事に不可欠なものとなっている。

養蚕・製糸業は、明治以降の我が国の近代化を支えた基幹産業であり、世界遺産富岡製糸場に代表されるように、全国各地に文化財的価値のある建物や技術が残されている。

「新たなクールジャパン戦略」（2024年6月4日内閣府知的財産戦略本部決定）で指摘されているように、“特に近年では、文化や独自性に重きを置くモダンラグジュアリーの価値観（「本物の体験」、「エコツーリズム」、「サステナビリティ」等に重きを置く。）が重視される傾向が強くなっている”。

養蚕・製糸業においても、このような傾向を捉え、日本の養蚕の歴史や文化を背景として国産繭の価値を高めることができると考えられる。



（出典）日本政府観光局Webサイト（下記）より

<https://www.jnto.go.jp/projects/regional-support/news/2129.html>

EUでは、シルクの歴史的・文化的財産を活用したシルク産業のイノベーション・エコシステムを創出することを目的とする研究プロジェクト（ARACNE）が進行しており、そのベースとしてカイコ、桑、織物の歴史等をまとめた「ナラティブ・カタログ」を作成している。



Table of Contents

01 Introduction - The ARACNE Silk Road Consiglio per la Ricerca in Agricoltura e l'Analisi dell'Economia Agraria (CREA) / Silvia Cappelletta / 75 02 The History of Sericulture in Europe University of Padua / Francesco Vianello / 16 03 The Traditional Rearing and Sericultural Equipment Consiglio per la Ricerca in Agricoltura e l'Analisi dell'Economia Agraria (CREA) / Silvia Cappelletta / University of Maribor / Marko Balabik / 12 04 Mulberries - Living Monuments of Sericultural History University of Maribor / Andreja Urbaneck Krnjez / 18	04.1 The Traditional Equipment used for Mulberry Cultivation University of Maribor / Andreja Urbaneck Krnjez, Seta Irjen, Marko Balabik / 38 05 Outline of silk processing with brief historic notes Consiglio per la Ricerca in Agricoltura e l'Analisi dell'Economia Agraria (CREA) / Silvia Cappelletta / Naushen Tsvetanov / P. Bubanov / Vrabas (SCS) / Panosir Tsvetanov / 32 06 History of Sericulture in the participating ARACNE countries ITALY / Silvia Cappelletta / 52 BULGARIA / Panosir Tsvetanov / 68 GREECE / Stavros Giallinis, Donato Koptanidis / 80 GEORGIA / Nina Kuparava, Sakrebulo Shashvashvili / 112 FRANCE / Sylvain Desmarest, Tisserand, Jean-Pierre Marie, Delphine Tisserand, Johnny Gaillet / 112 SPAIN / José Carlos Arandón, Marta Sánchez Alcaraz, Salvador D. Aznar-Cervantes, Zaida Hernández Guillén, Ana Pleguez Domínguez / 112 SLOVENIA / Andreja Urbaneck Krnjez, Vesna Mlačič / 122
--	--

我が国でも2019年に蚕糸・絹業提携グループが「26の物語で紡ぐ日本の絹」という小冊子を作成しているが、近年様々な分野で「ナラティブ」が注目されており、国産繭・生糸を使用したビジネス展開する企業等もソーシャルメディアも活用した「ナラティブ」の創造と拡散による話題性や注目度のアップを検討してみる価値はある。



2019年 蚕糸・絹業提携グループ全国協議会作成

(2) 洋装需要をターゲットにした新たなビジネスモデルの構築

国内の生糸需要量の9割を占める洋装需要については、蚕糸・絹業提携グループの川下業者が和装業者中心であったことから、市場開拓が遅れているのではないかと考えられる。洋装需要をターゲットにした商品開発を進めることにより、新たな国産繭・生糸の需要を創出・拡大することができると考えられる。

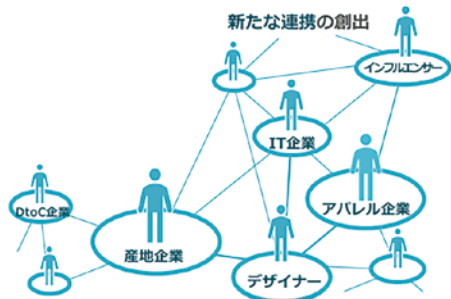
経済産業省がまとめた「2030年に向けた繊維産業の展望」では、新たなビジネスモデルを創造するため、「ファクトリーブランドやD to C企業を多く創出する支援を進めるとともに、デジタル分野をはじめとする他分野との連携を促進」するとしており、国産繭・生糸を使用した商品企画・販売等についてもこのような新たなビジネスモデルを取り入れていく必要があると考えられる。

戦略分野Ⅰ 新たなビジネスモデルの創造

- ファクトリーブランドやD to C企業を多く創出する支援を進めるとともに、デジタル分野をはじめとする他分野との連携を促進。
- 事業承継等を支援することで、高い技術を次代に受け継ぐための取組を進める。

ファッション・ビジネス・フォーラムを通じた好循環の創出

- 独自ブランド等を通じた独自製品の展開により、賃金上昇や人材獲得等につなげる、“好循環の創出”を作り出すことが重要。
- デザイナー、インフルエンサー、産地企業、D to C企業、アパレル企業、他分野の企業等が結びつく場として、ファッション・ビジネス・フォーラム（仮称）を開催。



繊維産地間の連携

- 国内の産地には、就業者数や出荷額の減少など、共通の課題があり、そうした課題に対応した有効な取組を共有・横展開していくことが望ましい。
- 産地を有する地方公共団体により構成する「繊維産地サミット」（仮称）を設置・開催する。

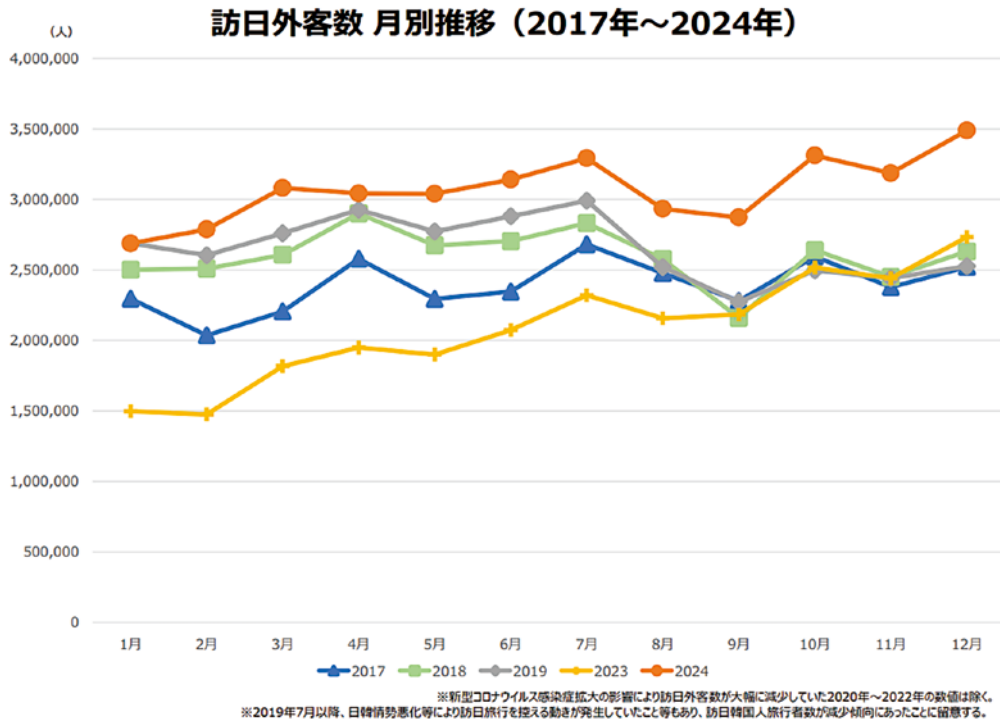
事業承継等の促進

- 事業承継・引継ぎ補助金により、事業承継・引継ぎ後の設備投資や販路開拓等の経営革新に係る費用、事業引継ぎ時の専門家活用費用等を支援。
- 生産性向上を目指した事業再編を行う取組を支援するため、産業競争力強化法により、事業再編計画として認定した取組を、税制優遇や金融支援等の支援措置により、後押しする。

（出典）経済産業省 「2030年に向けた繊維産業の展望」 概要資料

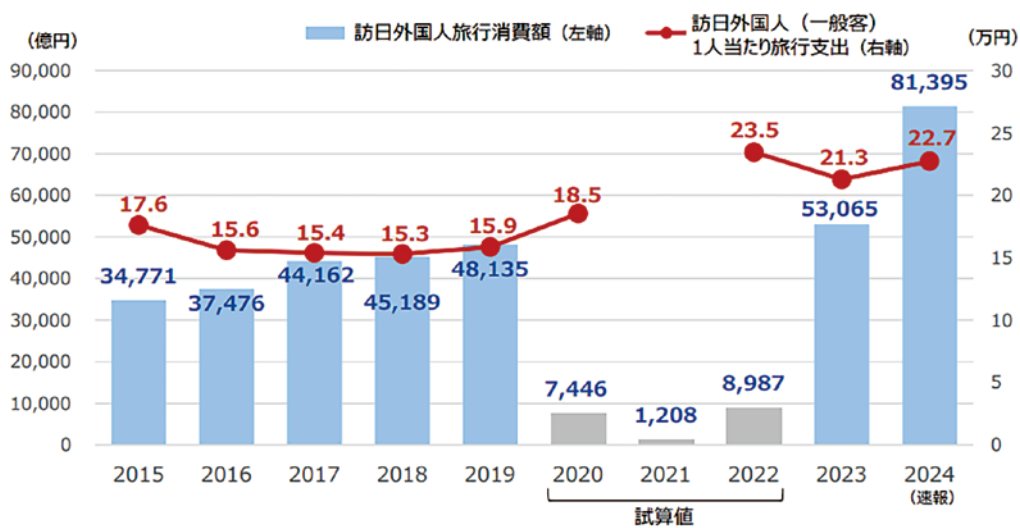
(3) インバウンド消費へのアプローチ

2024年の訪日外客数は3,687万人で、過去最高を記録し、その消費額は年間8兆円を超えている。このことを踏まえ、訪日客（特にラグジュアリー層）をターゲットとした商品開発をしていくことが有効と考えられる。



（出典）日本政府観光局「訪日外客数（2024年12月および年間推計値）」（2025年1月）

年間の旅行消費額・1人当たり旅行支出の推移



（出典）観光庁「2024年暦年の調査結果（速報）の概要」（2025年1月）

(4) 国産繭・生糸の強みが発揮できる素材・技術

①特色ある蚕品種

大量に生産される普通蚕品種の他、色繭や細繊度の繭を作る蚕品種、在来品種の「小石丸」や雄の繭だけ利用する「プラチナボーイ」など様々な特色ある蚕品種が利用されている。これらは、数量は少ないものの、輸入生糸との差別化が可能で、付加価値の高い製品づくりに活用されている。

蚕品種別蚕種製造量

【単位：箱（20,000粒/箱）】

区分	品 種	2023年製造量
一般蚕品種	普通蚕品種	2,365
	ぐんま200	492
	なつこ	92
	あさひとうかい	13
	太平×長安	11
色繭蚕品種	緑繭2号	83
	ぐんま黄金	16
	黄白	8
	奄美黄金	6
細繊度蚕品種	松岡姫	70
	ぐんま細	65
	かいりょうあけぼの	60
	白麗	40
特色ある蚕品種	新小石丸	81
	おりひめ	81
	小石丸	80
	プラチナボーイ	32
	玉小石	19
	MCS107×セヴェンヌ白	8
	N5・N6×TY40	3
	その他	15
計		3,640

(資料) 大日本蚕糸会調べ。

(備考)

1. 「普通蚕品種」は、春嶺×鐘月、錦秋×鐘和等の品種
2. 「その他」は「青熟×C5×C6」、「青熟×C5・505」

②遺伝子組換え等最先端技術

遺伝子組換えやゲノム編集技術は、i)カイコ自体の遺伝子を改変する方法、ii)遺伝子改変したバキュロウイルスをカイコに感染させて有用物質を生産する方法の2つの方法が適用されている。

繊維利用については、現在、下表のような遺伝子組換えカイコが利用可能となっており、付加価値の高い製品作りへの活用が期待される。有用物質生産については、動物用医薬品の生産等で実用化されている。

麗明／れいめい (GCS508×中517号) 令和2年 育成者：農研機構、 群馬県蚕糸技術センター	高染色性絹糸の生産を目的とした改変フィブロインH鎖遺伝子を導入した遺伝子組換えカイコである「GCS508」に「中517号」を交配した雑種第一代である。染色性が高く、極細繊維度品種「白麗」よりも10%程度細い超極細繊維度品種である。夏季高温で三眠蚕が出やすい。また、低温で上簇させると解じょが悪くなるので注意が必要である。
蛍光シルク／けいこうシルク (GFPぐんま200他) 平成29年 育成者：農研機構、 群馬県蚕糸技術センター	農家飼育が承認された品種として、緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ（GFPぐんま200）、青色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ（シリウス，GN13×GCS13）がある。また、より蛍光色が強い緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ（アザミグリーン）、赤色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ（F90）に関しては、生物多様性影響評価試験を行っているところである。 蛍光タンパク質は、高温で退色してしまうので、60℃以下での取り扱いが求められる。

（資料）大日本蚕糸会「多様な蚕品種と絹素材」（令和7年2月）より抜粋。

③品質評価と繊維加工技術

国産繭の生産量が極めて少なくなっている中で、安定した品質の生糸を供給することができないという問題があり、大量生産を前提とした従来の品質評価項目で評価しても輸入生糸に勝ることはできないと考えられる。

日本の生糸は白度が優れているという評価はあるが、数値化されたものはない。染色時の色だまりの原因となるラウジネスは白度との相関は明確ではなく、むしろ強度との関連性がある。新たな評価項目として導入する場合には、評価結果が養蚕農家の生産意欲向上に結びつくような方法で実施する必要がある。

また、製糸や撚糸の工程で国産生糸の品質のばらつき等の弱みをカバーするとともに、他の繊維との混紡やウォッシュブル機能の付与等により付加価値を高めることができると考えられる。

用途別に見た国産繭・生糸の強みを活かす方策（たたき台）

用途	国産の強みを活かす方策	備 考
和装等高品質繊維用途	・ 白度 〔従来の検査項目*では国産繭・生糸の競争力が乏しいのではないか。 *繭：生糸量歩合、解除率等 生糸：伸度、ヤング率等〕 ・ 特色あるカイコ品種 ・ 歴史・文化の活用 ・ 「ナラティブ」 ・ 産地証明	・ FFAによるラウジネス検査は使えないか？
洋装・インテリア・小物用品等用途	・ 新たなビジネスモデルの創出 ・ 繰糸・撚糸等加工技術（絹紡糸、シルクトウ等の利用） ・ 特色あるカイコ品種 ・ 歴史・文化の活用 ・ 「ナラティブ」 ・ 産地証明	・ 安曇野市海外プロモーション協議会では、服飾系専門学校の学生たちと協力。「天蚕糸」を用いた新商品を開発するプロジェクトのビジネスプランコンテストを実施。
医薬品・化粧品・食糧品用途（パウダー化利用）	・ 安全性（特に食品用） ・ 有機生産 ・ トレーサビリティ ・ 歴史・文化の活用 ・ 「ナラティブ」 ・ 産地証明	・ 食用及び飼料用カイコ生産ガイドライン（昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム令和6年1月） ・ 有機繭/生糸のガイドライン（全国シルクビジネス協議会） ・ 純国産絹マーク

④トレーサビリティ

近年、欧州においてサステナビリティや人権デュー・ディリジェンスが重視されてきており、グローバル企業では責任ある原料調達が求められている。特に、欧米への輸出を狙って商品開発を行う場合には、日本の繭・生糸の産地や生産方法の記録を整備（可能であればデジタル・データとして保存）しておくことが必要と考えられる。

⑤安全性・環境保全・経済安全保障

食料生産については、消費者から安全性や安心感が強く求められていることから、GAPや有機栽培の認証の取組が進んでいる。養蚕についても、特に食品用向けでは、同様の取組を進めることが国産繭の競争力強化につながると考えられる。

桑条のバイオ炭化が温室効果ガス排出削減に有効と実証されれば、それに取り組んでいることをアピールすることにより、国産繭の訴求力を高めることができると考えられる。

シルクは、原料生産から製品まで自国で生産できる繊維素材として、経済安全保障の観点から今後注目すべきとの意見もある。

(5) 医薬・化粧品・食品用途向け需要への対応

近年、繊維以外の医療品、化粧品、食料品等の需要に向けたビジネス展開を目指す企業が出現しており、国産繭の供給可能な養蚕農家を探す動きがみられる。

また、海外の展示会出展者の情報によると、2024年4月にフランス・パリで開催された「VIVA TECHNOLOGY2024」や2025年1月に米国・ラスベガスで開催された世界最大の技術展「CES2025」では、“サステナビリティ”、“非化石燃料”、“ラグジュアリー”、“動物愛護”、“脱炭素”等の観点から、化粧品、バイオプラスチック、医療機器等の原料として日本のシルクが注目された。また、2024年シンガポールで開催されたアジア最大の食と農の展示会「AGRI-FOODTECH EXPO ASIA2024」では、“食の持続性”、“環境再生型農業”等の観点から、Novel Foodや培養肉等の開発面でカイコへ関心を持つ来場者があった。(ユナイテッドシルク(株)河合委員提供情報より)

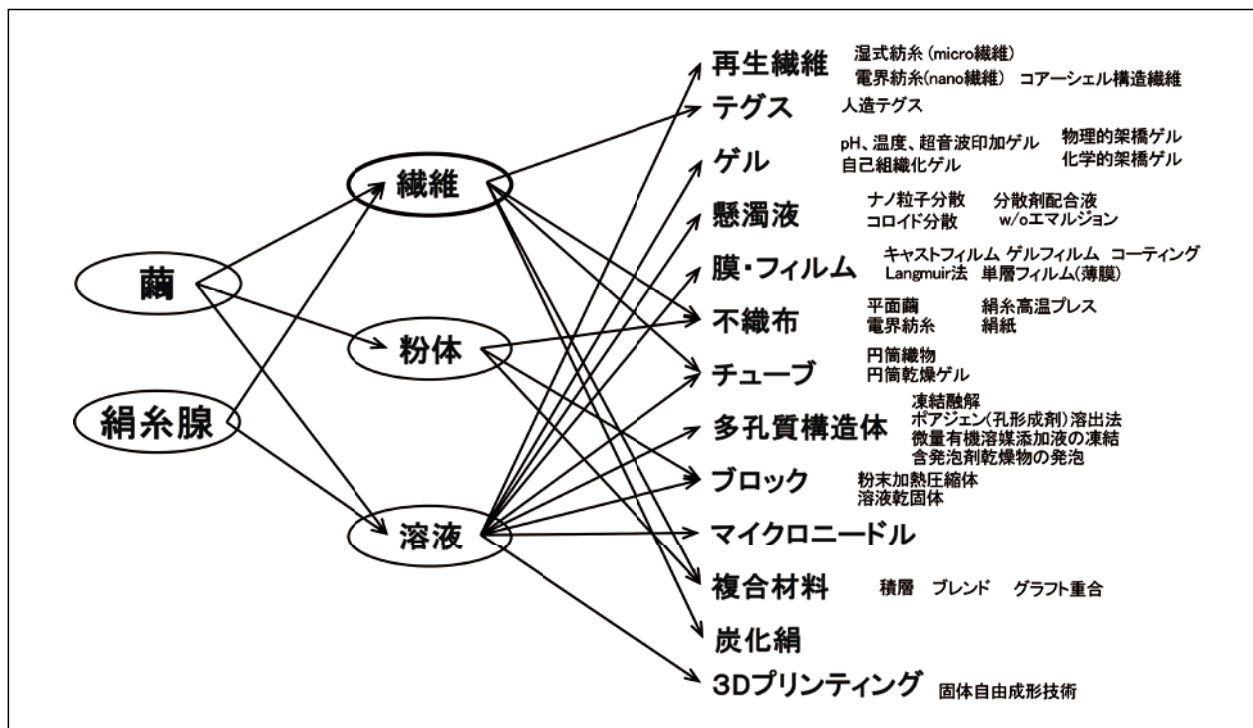
非繊維シルクの需要

需要の分野	活用できるシルクの特徴	具体的な活用場面
医療分野	生分解性 生体内でのなじみ良さ アレルギーフリー 安全性	○手術用縫合糸のほか近年粉末形態のシルクも医療用機器として上市。 ○精練された天然シルクは「安全な生体材料」としてFDA承認済。
化粧品分野	肌への適合性 吸湿性・保湿性 紫外線吸収性 優れた成形加工性	○粉末形態での利用 ・100%シルク粉末 ・機能性シルク粉末（有効成分を「共晶」、「包摂」、「固定化」） ・シルクコート粉末 ○粉末形態以外にも水溶液、ゲル、フィルム、不織布の形態で利用
食品分野	高純度タンパク質 タンパク質としての高均一性 分解して機能性ペプチド生成 優れた成形加工性	○吸収されて機能性効果発揮 ・栄養源/食感改良材/薬理効果 ○吸収されないことで機能性発揮 ・吸収抑制 ・難消化性を活用したドラッグデリバリー ○食品パッキング剤 ・「性分解性」、「ガスバリアー性」、「湿気・酸素透過制御」等で鮮度保持 ・廃プラスチック問題なし ○細胞性食品の足場材
環境分野	物質吸着性 細胞外電子伝達機能 環境中に放置されても環境を汚さない	○水質浄化 ・重金属の捕捉 ・有害物質を分解する微生物の活動活性化 ○空気清浄 ・シルクの消臭性を活用
工業材料分野	他の材料と複合化可能（界面接合性） 優れた成形加工性 高物性（強度・耐熱性） 生分解性 豊富な化学修飾点・機能性付加反応性 CN性・CE性	○樹脂強化材料 ○エレクトロニクス・光学材料 ○ナノテクノロジー

備考：農研機構亀田委員提供資料をもとに作成。

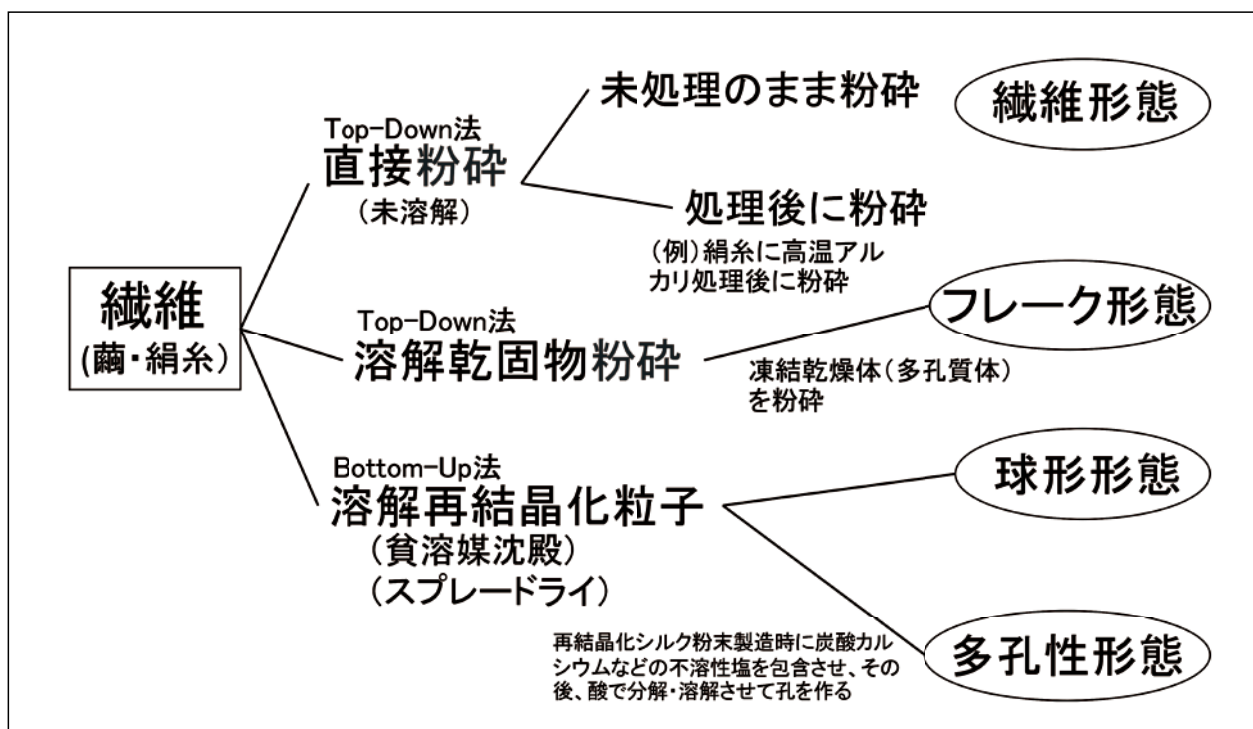
このような非繊維分野のシルクの利用においては、粉末、溶液等様々な形態がある。また、粉末でも製法によってその形態が異なっている。

非繊維シルクの形態と成形技術



出典：農研機構亀田委員提供資料。

「粉末」でも製法によって異なる形態



出典：農研機構亀田委員提供資料。

このような非繊維分野の需要については、繭が繊維用途よりも高い価格で販売でき、養蚕農家にとってメリットがある可能性がある。

ただし、養蚕農家や製糸業者は、単に「原料を供給する」のではなく「用途に適したシルク素材を提供する」という考え方で対応する必要がある。例えば、用途に応じた養蚕方法の変更や繭保管環境管理等が必要である。特に、医薬、化粧品、食品用途向け需要に対しては、管理されたクリーンな環境やオーガニック環境での養蚕、セリシンカイコのような特殊蚕品種の飼育、カイコを殺さないエシカル対応等が必要とされる。また、工業材料、環境用途向けでは、CN（カーボンニュートラル）やLCAの意識を持つことも必要となる。一方、繊維用途に求められるきれいな糸である必要がなく、出殻繭でもかまわない場合もある。

非繊維需要を国内養蚕農家の収入源の一つとするためには、非繊維利用企業の要望を踏まえ、国内産の繭を円滑に提供できる体制を構築していくことが求められる。その際に、国内蚕糸業が必要とする繭・生糸の調達に支障が生じないようにする必要がある。

なお、以上のような非繊維需要の他、魚養殖飼料用への蛹の需要や煮繭や精練時の廃液や種繭の切り繭など養蚕・製糸・絹加工段階の副産物の需要に対応していくことも、養蚕農家や製糸業者の収益増につながる可能性がある。

3. 活用できる支援制度

国産繭・生糸を用いた付加価値の高い製品作りについては、農林水産省、経済産業省、観光庁等の補助事業等が活用できる。また、差別化を可能とする表示制度がある。

<農林水産省関係>

和文化・産業連携振興協議会

- ・令和元年度、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした和の文化の発信を目的として、イ草、茶、花き、蚕糸の4業界関係者が横断的に連携する協議会として発足。
- ・令和3年度に「和文化生活宣言」公表。
- ・その後、シンポジウムや各種イベントで連携。

農山漁村発イノベーション対策

農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、付加価値を創出することによって、農山漁村における所得と雇用機会の確保を図る取組等を支援。

1. 農山漁村発イノベーション推進事業

- ① 地域活性化に向けた活動計画策定、関係人口創出、地域づくりを担う農村プロデューサーの育成及び実地研修による技術力向上、農業・農村の情報発信等を支援。
- ② 地域資源を活用した商品開発、デジタル技術の活用に係る専門人材の派遣・育成等を支援。
- ③ 農泊の実施体制の整備や経営の強化、観光コンテンツの磨き上げ等の取組を支援。
- ④ 農福連携の普及啓発、障害者等の農林水産業に係る技術の習得、専門人材の育成等を支援。

2. 農山漁村発イノベーション整備事業

- ① 農林水産物加工・販売施設、地域間交流拠点等の整備を支援。
- ② 農泊の推進に必要な古民家等を活用した滞在施設等の整備を支援。
- ③ 農福連携の推進に必要な障害者等が作業に携わる生産施設等の整備を支援。

<観光庁関係>

インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業(令和4年度2次補正)

令和5年度第1次公募採択800件のうちシルク・絹関係2件

県名	事業実施主体	事業内容
山形県	史跡松ヶ岡開墾場管理運営協議会	夜の史跡松ヶ岡開墾場「サムライシルク・ナイト」促進事業
京都府	一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	絹織物「丹後ちりめん」の日本一の生産地丹後の魅力を世界に発信

地域・日本の新たなレガシー形成事業（令和6年度）

群馬県富岡市：世界遺産富岡製糸場を核とした新たなレガシー形成事業

<経済産業省関係>

伝統的工芸品産業の振興に関する法律

「一定の地域で主として伝統的な技術又は技法等を用いて製造される伝統的工芸品」の「産業の振興を図り、国民の生活に豊かさと潤いを与えるとともに地域経済の発展に寄与し、国民経済の健全な発展に資することを目的」とする。

工芸品の産地組合等からの申請に基づき、指定要件を満たすものを経済産業大臣が「伝統的工芸品」として指定。指定を受けた産地では、振興計画を作成して経済産業大臣の認定を受けた後、その振興計画に基づいて事業を行うのに必要な経費の一部を国、都道府県等から助成を受け、産地全体で振興を図ろうとするもの。

織物：結城紬など38品目

染織品：京友禅など14品目

その他繊維製品：伊賀くみひもなど5品目

経済産業大臣により指定を受けた伝統的工芸品は、個々の商品に『伝統的工芸品として指定されているものであること』を表示することができる。



＜絹に関する表示制度＞

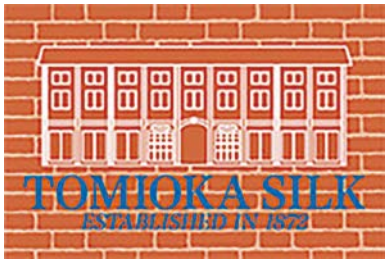
1. 日本の絹マーク

日本の絹マーク（H14～）	純国産絹マーク（H20～）
絹製品のうち、日本で製織された白生地並びに日本で染織されたきもの（反物、仮絵羽）及び帯に添付。 日本絹業協会が運営していたが、日本絹業協会の解散により、大日本蚕糸会が引き継ぐ。 ＜仕組＞ 1. 先染織物は産地組合がその責任でシール等を添付する。 2. 白生地は織物産地組合の責任でスタンプを押印する。 3. 染色加工品は、その生産に係わる染色加工業者又は染色加工業者に染め加工を委託したものが自己の責任でシール等を添付する。その場合は白生地にスタンプが押印されていることを確認する。	大日本蚕糸会が国産の繭・生糸だけを使って製造された純国産の絹製品であることが消費者に一目で分かるようにするために作成したもの。 繭生産・生糸加工・染や織などを誰が行ったのかなど、つくり手の顔が見える絹製品の生産履歴を掲載。 提携グループのメリット措置として、当初は提携グループからの申請に限られていたが、R4から提携グループ以外の申請も可能としている。 ＜仕組＞ 有識者で構成された「純国産絹マーク審査委員会」で審査し、承認された純国産絹製品に対してのみ、シール・タグ等を交付。
・12組合、4民間会社が活用。 ・毎年度実績報告あり。 ・シール、タグの作成費の一部を補助。	・シール、タグの作成費は当初全額蚕糸会負担であったが、R4から所定の印刷料金を徴収。
	

2. ぐんまシルク認証制度

	群馬県は「群馬シルク」のブランド化を進め、市場競争力の向上を図るため、群馬オリジナル蚕品種を使った高品位の生糸や絹製品を認証。
---	--

3. 富岡シルクマーク

富岡シルクマーク	富岡シルクプラチナマーク
厳選された富岡産の繭を原料とし、国内で製造された純国産の絹製品であり、申請により「一般社団法人富岡シルク推進機構」が認めた製品。	富岡産の繭を100%使用し国内で製造された純国産の絹製品であることに加え、企画段階からいくつもの厳正な審査を経て、「富岡シルクブランド認証委員会」がデザイン性や創意性に優れていると認めた製品。 タグの裏面には蚕品種名、繭生産地、製造履歴、申請者等が表記され、製品がどこで誰によって作られたか、トレーサビリティに配慮。
	

4. 岡谷シルク認証制度

	(1) 対象となる製品類型 【第1類型】 オール岡谷産のシルク製品 【第2類型】 シルク製の衣類、ストール、インテリア等 【第3類型】 桑や養蚕、製糸工程で抽出される成分等が用いられている製品。桑の根を使用した化粧品、シルクパウダーを使用した食品、蚕のさなぎを飼料にして育てたもの等 【第4類型】 旅行、体験、学習などのサービス (2) 認証された商品は岡谷シルクの公式サイトへ掲載。
---	--

5. 地理的表示（GI）保護制度（地理的表示法）

その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因の中で育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する産品の名称を、地域の知的財産として保護する制度。

伊予生糸（いよいと）

登録番号：第10号

登録年月日：平成28年2月2日



<特性>

時間をかけて丁寧に繭から糸を引き出すため、蚕がS字状に吐いて作った糸の繊維のうねりがそのまま残り、嵩高となる。また、光沢があり、ふんわりと柔らかい風合いの糸。

<地域との結びつき>

生の状態で冷蔵保存した繭を原料とする生繰り法により、テンション（張力）を抑えつつ低速で、かつ、多数の繭から繰糸する多条繰糸機を用いて生産する貴重な産地。